

《競技注意事項》

この大会は、2017年度（公財）日本陸上競技連盟競技規則と本大会要項ならびにオホーツク中体連大会規定、監督会議の申し合わせ事項により実施する。

1. 招集

- (1) 競技者は、出場種目の招集開始時刻がきたら、招集所にて自分のナンバーカードを競技者係に示し、出場する種目・組・レーン（試技順）を告げて確認を受ける。混成競技者も同様に、競技者待機場所において競技者係から点呼を受ける。
- (2) 競技者係（招集所）の位置は、フィニッシュ後方の用器具庫内とする。
- (3) 招集はすべて競技者係の指示に従う。招集開始時刻・終了時刻は次の通りとする。

	ラウンド	予選		準決勝・決勝
トラック競技	競技開始時刻	1～4組	25分前～15分前	15分前～10分前
		5～8組	15分前～5分前	
フィールド競技	棒高跳を除く	競技開始時刻	35分前～25分前	25分前～20分前
	棒高跳	競技開始時刻		60分前～50分前
四種競技	競技開始時刻	すべての競技において15分～10分		

- (4) 招集に遅れた者の出場は認めない。
- (5) 競技進行上、競技開始時刻に多少の変更もあり得るので、アナウンスを聞き漏らさないよう注意すること。
- (6) 招集完了後、招集待機場所で待機し、勝手にその場を離れてはならない。移動は競技者係の指示に従う。
- (7) 2つの競技に出場する競技者は、あらかじめ所定の用紙に必要事項を記入し、競技者係に提出しておく。招集の際に競技者係にそのむねを連絡し、その後、係の指示に従って行動すること。（用紙は、競技者係に備えている）
- (8) やむを得ず棄権するときは、欠場届を競技者係で受け取り、招集完了時刻までに競技者係に提出する。
- (9) リレーのオーダー用紙は、各ラウンドの第1組目の招集完了時刻の1時間前までに競技者係に提出する。
（オーダー用紙は、競技者係に備えている）
- (10) ナンバーカードは、縫いつけるか安全ピンで確実に止めること。（走高跳・棒高跳に出場する競技者は胸部または背部のいずれか一方でよい）
- (11) トラック競技の出場者は、招集の際競技者係より、腰ナンバーカードを借り受け、ランニングパンツの右腰やや後方に取り付ける。（フィニッシュ後は、必ず回収係の補助員へ手渡すこと）

2. レーン・競技順

- (1) プログラムの記載の上から下へ番号順とする。ただし、四種競技は、種目ごとに試技順が違うのでプログラムで確認すること。
- (2) トラック競技の準決勝・決勝レーン順及びフィールド競技、決勝の試技順は番組編成員で公平に抽選し、記録掲示板に掲示する。

3. トラック競技

- (1) タイムにより、次のラウンドの出場者を決める際に、同成績がある場合は、競技規則第167条2を適用する。
- (2) 各レースにおいて、不正スタートは、競技規則第162条を適用する。
- (3) 写真判定のための腰ナンバーカードを使用するが、リレーの場合は、第4走者のみとする。
- (4) 3000mにおいて、先頭走者より2周遅れになると、競走中止となる。

4. フィールド競技

- (1) 走高跳・棒高跳
 - ① 走高跳は男子・女子ともに決勝のみとし、バーの上げ方は次の通りとする。
 【男子】練習：1m15-1m35-1m50 決勝：1m20～1m65までは5cm上がり 以降3cm上がりとする。
 【女子】練習：1m10-1m25-1m40 決勝：1m10～1m40までは5cm上がり 以降3cm上がりとする。
 - ② 棒高跳は決勝のみとし、バーの上げ方は次の通りとする。
 【男子】練習：2m00-2m70-3m40 決勝：2m00～2m20までは20cm上がり、以降10cm上がりとする。
 - ③ 第1位が2名以上の場合、順位決定のバーの上げ下げは、走高跳は2cm、棒高跳は5cm単位とする。
- (2) 走幅跳・砲丸投
 - ① 予選通過記録は次の通りとする。

【男子】走幅跳：5m70 砲丸投：10m30

【女子】走幅跳：5m45 砲丸投：12m50

- ② 予選通過者が12名に満たなかったときは、予選成績により追加補充をする。同成績の場合は、競技規則第180条15は適用しない。

(3) 混成競技

- ① 走高跳のバーの上げ方は次の通りとする。

【男子】練習：1m10-1m25-1m40 決勝：1m15～1m55までは5cm上がり 以降3cm上がりとする。

【女子】練習：1m00-1m15-1m30 決勝：1m05～1m30までは5cm上がり 以降3cm上がりとする。

- ② 最終種目は、それまでの成績順により番組編成を行う。(出場人数による)

(4) 助力

競技規則第144条4項(e)は適用せず、助力とみなす。

5. 競技について

- (1) 競技者・監督といえども、その競技に出場する者以外は競技場内に入ることはいできない。
- (2) 短距離走では、競技者の安全のため、フィニッシュライン通過後も自分のレーンに沿って走り、前後左右の安全を確認してからレーンを出ること。
- (3) リレー競技のマーカー使用は1箇所とする。使用したマーカーは、そのチームで処理する。マーカーについては出発係から受け取ること。
- (4) リレーチームの編成メンバーについては、競技規則第170条10を適用する。
- (5) 棒高跳の競技者は、自分の希望する支柱の位置を練習のときに担当審判員に申し出ること。
- (6) 抗議と上訴については、競技規則146条に従い、監督が総務(専門委員長)を通じて行う。

6. 競技用具について

- (1) 競技に使用する用具器具は、棒高跳のポール以外、全て主催者が準備したものを使用しなければならない。
- (2) 個人使用のポールは、検査を受けて合格したもののみ使用できる。ポールの検査は、棒高跳ピットで跳躍審判員が行う。

7. 練習について

- (1) アップについては、指定された場所以外は使用しないこと。
- (2) ホームストレート競技の際、バックストレートを使用してもよいが、競技役員の指示に従うこと。

8. 服装・競技用靴について

- (1) 服装(ユニホーム)
- ① 競技の服装は清潔であり、かつ競技に適したものとする。
- ② リレー競技については、統一したユニホームを着用する。またすべての競技において、ランニングパンツ又はハーフタイツのどちらかに統一すること。
- ③ 身だしなみ(髪型、染色、脱色、ピアス類など)については各学校で十分に指導すること。
(特別な事情がある場合、顧問が説明できること。)
- ④ アクセサリー類は、身につけないこと。
- (2) スパイク
- ① 競技用靴の靴底及び踵は、11本以内のスパイクを取り付けられる構造とする。11本以内であれば、何本でもよい。
- ② スパイクの長さは9mmを超えてはならない。また走高跳の場合は、12mmを超えてはならない。

9. 表彰

- (1) 各種目の優勝者にはバッジ、8位までの入賞者に賞状を授与する。(決勝終了後、競技役員の指示に従い表彰席に待機すること)

10. 全道・全国大会

- (1) 各種目における標準記録突破者は、全道・全国大会への出場資格を得る。ただし、全国大会の参加標準記録については、追い風参考記録の場合は対象とならない。

11. その他

- (1) 選手に事故があった時などは、大会本部に連絡すること。
- (2) 正面スタンド前(本部席前)は通行禁止とする。また、100mスタート側芝生にテントを張らない。
- (3) 貴重品については各学校が管理し、盗難にあっても責任は負いかねるので注意すること。
- (4) 携帯電話その他類似の機器を競技場内で所持及び使用することを禁止とする。
- (5) 大会中は、ゴミの持ち帰り、テント跡の清掃を必ず行うこと。

